



慶應義塾大学グローバルセキュリティ研究所

第20回安全安心サイエンス「感染症・バイオテロ研究会」

2009年研究会テーマ

「異常な感染症の発生を知る」

迅速な対応開始による被害軽減のためのState of the Art

コーディネーター: 齋藤 智也

慶應義塾大学医学部熱帯医学寄生虫学

「明示的バイオテロ(Overtバイオテロ)への対応」

コンセプト

プログラム

本年度は主に秘匿的バイオテロ(Covertバイオテロ)を対象に、その攻撃の結果として生じる異常な感染症について、をテーマとして研究会を開催してきた。第20回では明示的バイオテロ(Overtバイオテロ)への対応をテーマに、その発生を知る方法を検討する。明示的バイオテロの発生シナリオとしては、爆発物への生物剤の混入や上空からの投下、または米国で起こったような粉状に加工しての撒布や配布、といった形態が考えられる。また、近年開発されつつある生物剤検知技術は、エアロゾル撒布のような旧来は秘匿的テロであったものを明示的テロへと変化させる可能性がある。このような発生事例は、警察や消防などが初動対応者となり、化学剤への対応と類似するところがあるといえるだろう。本研究会においては、Overtテロへの対応戦略について、主に化学剤攻撃への対応を事例としてご解説頂き、現場対応において求められる検知の技術をご解説頂く。続いて、文部科学省安全安心科学技術プロジェクトで推進されている生物剤検知技術の開発状況をご解説頂く。ご講演のあと、総合討論の機会を得て、Covertテロ対応現場におけるニーズと技術シーズ双方の今後の方向性を検討しつつ、新技術の現場での運用に向けた未来を展望する事を狙いとしています。

「現場対応で求められる検知技術 -BCテロの現場対応オペレーションの視点から」

陸上自衛隊関東補給処 化学部長

中村 勝美 氏

「生物剤検知システム研究開発の 現状と課題」

東芝 ディスプレイ・部品材料統括

新デバイス開発センター長

二階堂 勝 氏

総合討論

開催場所：慶應義塾大学三田キャンパス
東館6階 G-SEC Lab

開催日時：2010年1月23日(土)
14:00~18:00
受付開始13:30~

当日連絡先：03-5427-1293
(12:00~13:30)



参加を希望される方は下記のアドレスからお申込ください。「事前参加登録制」です。

申込方法：席に限りがございますので、定員に達し次第締め切らせていただきます。尚、お送りいただいた情報はプロジェクト内で管理しております。

事前申し込み：<http://biopreparedness.jp/>

申込締切：2010年1月20日 水曜日

本研究会は、平成21年度文部科学省安全・安心科学技術プロジェクト「テロ等への医学的見地からの公衆衛生措置や医療的対策に関する調査研究(研究統括:慶應義塾大学グローバルセキュリティ研究所 副所長・首席研究員 竹内 勤)」により実施しています。

慶應義塾大学グローバルセキュリティ研究所
安全・安心科学技術プロジェクト事務局
〒108-8345 港区三田2-15-45
TEL:03-5427-1293(内線23746)